

2018年度事業報告

社会福祉法人かわち野福祉会

2018年度は特養ながせが2017年11月に開所し初年度軌道に乗せること、また配食事業が委託事業を離れ独立採算を求められ既存のサービスを継続できるよう赤字幅を縮めることが重点課題でした。特養は入居者が開設1か月内外で満杯になり、1年4か月経過した3月末時点で168名に待機者を抱えています。入院や欠食で稼働率は低下しますが、部屋が空くタイミングを見計らっても次の入所につなげる努力をしています。しかし、短期入所生活介護（以下ショートステイ）の稼働率が平均70%で目標との乖離が進んでいます。要因としては人材不足、人員不足であり、宣伝を打って出られていないことです。まだまだ需要はあるので継続的な利用者確保を進める必要があります。この人材不足、人員不足は特養内だけでなくほとんど全部署で問題になっています。介護の分野では訪問介護員は求人広告を出しても反応は少なく、紹介、派遣会社によつて今年度の入職も58人ありましたが、退職は56人そのうち入職した当年の退職は18名ありました。入職、定着がうまく進まず、後継者育成にも大きく響いています。

法人全体の収入は 79,996万（前年度比 119.7%）その増収要因の多くは特養ながせ、ショートステイの収入増になります。また支出は 76,998万（前年度比 116.1%）事業の拡大に比例し増加していますが、人件費率はショートステイでは49.1%で人員不足の深刻さを露呈しています。DS かわち野も春から夏にかけて退職者が相次ぎ、剰余を出しているもののその要因は人員不足であり、現場の困難さ、一人一人にかかる負担は増加しています。経常増減差額は、▲2187万となり前年度（▲2370万）より183万円の改善に留まりました。

ショートステイ、ケアハウス、DSかわち野で剰余を出していますが、人員不足が続き支出を大きく抑えられたことが要因しています。また、サ高住では昨年度を629万上回るマイナス2925万（▲30.8%）、DSかんのは大きく稼働率が下がり昨年度からの経常増減差額が1133万下げ、▲611万（▲22.4%）。配食加納が10月より委託事業から外れ事業所としてスタートしましたが、▲151万（▲52.1%）の結果でした。ヘルパーステーションではかわち野（横小路）で200万近くを2年連続で収入減に陥っています。（2017年前年度差187万減、2018年前年度差188万減）また、ヘルパーステーションかわち野大東では前年度より収入521万減（83.7%）となりました。この二つの事業所は人件費率が100%を超えていることもあり、登録利用者を増やすことが急務となっています。

委託事業を9月末で終了し補助金が出なくなった配食サービスですが、1回利用料が450円から623円（税込）に負担が増えたことで、利用者数が各事業所で約3割減となってしまいました。配食長瀬では医療生協かわち野でのデイケアやデイサービスでの昼食を注文頂いたり、イベント食、ケータリングサービスなど奮闘してまいりましたが3事業所合計で▲1045万となり、なかでも個配の配食が消費税の対象となり支出が大きくなりました。

【本部】

今年度も本部総務の体制が安定せず、入職者も3か月～1年で退職となっています。引き継ぎから慣れる間もなく退職になっているため業務に安定性が欠けていましたが、会計処理は今年度から委託していたため月末までには収支結果が出て経営対策を検討することができました。按分表や経営資料を準備し、会計事務所で入力業務を一手に引き受けてもらっています。その分委託費が大きく膨らみましたが、会計関係以外には産業カウンセラーとの契約をし、ストレスチェック、面談を経て職場診断を行いました。人的体制の不十分さなどストレスが強くなっていたりと、メンタルヘルス対策は今後重要になっています。

総務に12月に1名、3月に1名、と常勤職員が配属し、次年度には入力業務も少しずつ担っていく予定にしています。

【特養ながせ】

報告者 市田幸次（遠山、川崎、板垣、竹越）

《運営状況》 各フロアで個々にあった個別ケアが展開できるようになり、利用者様への寄り添ったケアを進めています。しかし、中には状態、病態が悪化しADL低下や入院の長期化したケースもありました。

・退去後の次の入所までがスムーズに行えない状況がありました。待機利用者が150名を超え、定期的に待機者の状況把握や入所審査会で候補をあげておくなどの準備を進めていますがこの間が稼働率の低下にもなっています。

・今年度は介護度の軽度化（特養は要介護3以上）により2名の方が退所に至っています。認定更新の調査は外部の認定調査員が実施するため、日程の調整を行い家族への連絡、実施先が病院の場合は立ち合いや事前にシュミレーションなど介護度の維持に努めています。元気になって喜ばしいところですが、入所前の事前面接より意識する必要があります。

・各フロアで職員が不足している中、各々職員の頑張りで業務を進めてくれています。しかし、職員不足が慢性化しており職員の残業時間が全体的に増えています。また、職員教育の環境としては学習会、研修会等の開催が少なかったと思います。

・各ユニットでの職場づくりができてきています。「人権を尊重しぬくもりと笑顔あふれる居場所をつくります」の理念をもとに、入居者様が喜んでいただける施設づくりを目指してきました。業務や行事を担当制にし、意見を出し合って業務改善するなど取り組んでいます。

・今年度は初めての特養祭りを開催し他にも餅つき、花見と野点、お誕生日会など様々取り組み入居者様、家族様に喜んでいただいています。家族会も定期的に開催し、各階の交流会の実施しご家族様からの意見も反映できてきています。

・ボランティア活動は喫茶わたぼうしを中心に、火曜日の書道教室、木曜日のオカリナ演奏等が順調に開催できています。お掃除に来てくださる方やお正月用の門松づくり少しずつ増えています。

・求人活動では大手広告会社も含め4社と取り組み、ネット広告を中心に展開しました。ハローワーク、社会福祉協議会へも求人依頼も行ってきましたが、充足できるまでには至りませんでした。

《経営状況》特養は60室がいつも満室の状態を保つように心がけていますが、入院者が年間延べ38名、平均入院日数22日、1ヶ月を越えるケースが10件もありました。年間合計1173日の空室となっています。

・全員が1号被保険者（65歳以上）です。身体障害、精神障害、指定難病等医療助成がある入居者様も多く、有効期間の確認や更新手続き等が滞りなく進むよう支援しています。また高額介護サービス費受領委任払い、負担限度額認定証の更新手続きも有効期間が同時期に重なっているため作業が煩雑になりますが準備を進めています。特に指定難病等医療費助成の申請は準備も煩雑であり、家族の協力も不可欠ですが協力が難しい場合も多くなっています。

・特養は全員が利用料銀行引き落としになっているため、時々残高不足はありますが未収金はありません。

・衛生材料、消耗品など物品の購入については一定の流れができていますが、在庫管理や定数を明確にする仕組み作りをさらに進めていきます。

【特養ながせ】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	93%	93%	98%	93%	97%	93%	94%	95%	95%	93%	95%	94%	94%
介護度	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
退所	0	1	0	0	2	0	1	0	1	0	1	2	8
入所	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	0	1	6

【短期入所生活介護】

報告者 市田幸次（河本）

《運営状況》・SSのテーマにもしていた個々を大切にするという観点から、個別援助の一環として（定期利用者等）職員とご利用者が1：1の形で何かご希望に沿って企画させて頂く『個別企画』も実施することができました。自宅におられてもなかなか外出できなかつたり、食べたいものが食べられなかつたりとする事が以外にも多いことが分かり、ご本人やご家族は実施後に大変喜ばれていました。2か月に1度ペースでのイベント（花見・食事やおやつレク・クリスマス会・初詣等）を開催することができました。困難事例も受け入れる意識づくりができてきました。

・感染予防は手順に則り取り組んできましたが、31年2月にショートユニット（東側）にてインフルエンザ発症。発症者11名（うち職員2名）発症したため、保健センターと相談し16日～22日までを一時閉鎖し、23日より運営再開しました。

・昨年度からも引き続き事故やケガ、忘れ物等のインシデント・アクシデントもあり、その都度原因究明、再発防止に努め、月を追うごとに事例も減ってきており、31年度は出来る限り増やさない努力と対策を練り取り組んで参ります。

・SSは人員不足が続き入職2名（正規社員1名、パート1名）あったものの、離職者3名（契約社員1名、パート2名）という結果で、さらに減っています。人員補充は急務となっています。

《経営活動》

・年間（30年度）平均稼働率は70%で、目標とする85%には届かない結果となりました。稼働率の低い月としては5月、6月、11月、2月が70%を下回っており、特に5月と2月（インフルエンザで一時閉鎖）は50%台と振るわない結果となりました。

・新規利用者も多く利用いただきましたが、定期利用へ繋がるケースが少ない結果となっています。また、定期利用者の中には様々な事情により、特養ながせへの入居や他施設への入所、自宅復帰や死亡等の理由で利用中止もあり、稼働が伸び悩んだ要因となりました。

【短期入所生活介護】

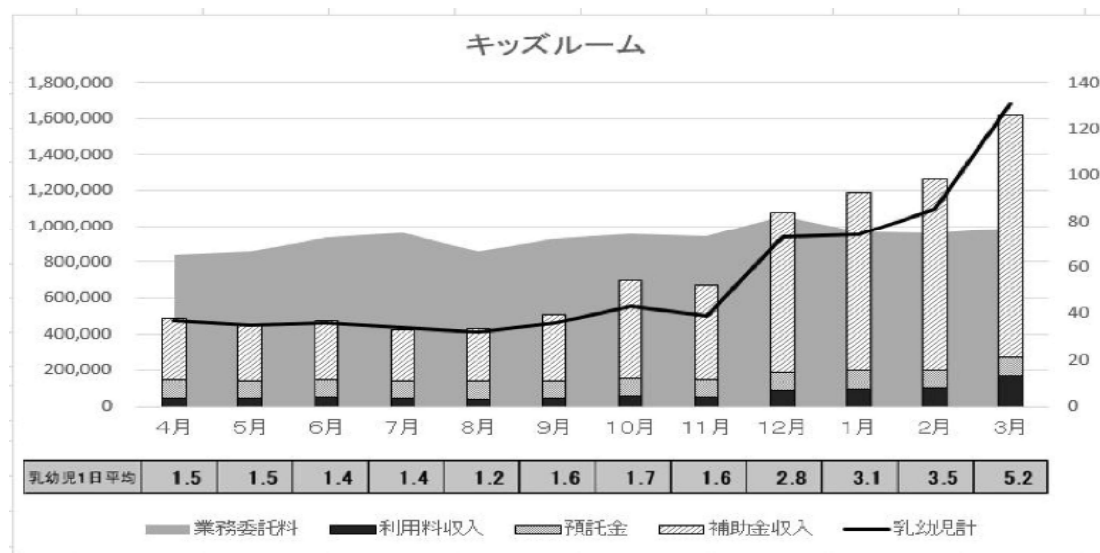
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率	73%	59%	65%	76%	80%	78%	70%	66%	76%	73%	58%	70%	70%
介護度	3.4	3.4	3.6	3.5	3.5	3.6	3.5	3.7	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5

【保育室（キッズルーム）】

報告者 小林美香

《運営状況》委託業者及び関連法人、医療生協かわち野労組、施設担当者などが入った運営会議を毎月定例化することにより、より要望に応えることができてきています。2017年10月16日に開所し、2018年1月下旬には給食の提供ができるようになり、協会と東大阪市の監査にも対応し、子供たちの内科検診、歯科検診も連携を取り実施することができました。もとより福利厚生の一環であり、職員確保、職員の働く環境支援の視点では、十分成果を出しています。また、特養での行事に子供たちが参加することで、高齢者が嬉々としている姿に交流の機会を増やせればと提案します。

《経営状況》開所当初は平均4名の利用があったが、新年度より公立の保育所に入所できるケースが多く、また利用を希望する入職者も確保できず低迷が続き、大きな欠損となりました。（2018年 経常増減差額 ▲285万）12月頃より巻き返していますが、次年度も4月から公立保育所など入所しほとんど残らない状態でのスタートとなります。利用が少なければ補助金の額も下がり、スポット利用で日祝日の利用や、夜間の利用で委託料がかさんでいる。



【ケアハウスかわち野里】

報告者 品川潤治

《運営状況》年度当初からの空室を埋めることができず、年間を通して常に空室がある状況でした。そのため、平成 30 年度の補助金が申請当初より少なくなり、20 万程の返金となりました。職員体制は不足した状態が続き、事務所不在の状態が増え入居者様を不安にさせてしまう状況になりました。また、これまで確実に行えていた送迎サービスを含めた個別サービスにも影響が出る事態になってしまいました。平成 30 年 10 月からの施設長交代となるも引き継ぎが満足に行えず、また施設長不在となる日も多くありました。人員不足の状況の中、入居者様の行事や食事などは例年通り行い、ケアハウス忘年会も例年と形式を変えて行い満足していただきました。一年大きな事故なく穏やかに過ごしていただけたと思います。

《経営状況》前年度は退居後すぐに入居者を迎え、空室を作らない状況を維持する事ができていた。今年度は退居後、すぐに入居者を迎える事ができず、また入居者数を退居者数が上回った事もあり、空室状態を改善する事ができませんでした。そのため、収入 6458 万と前年度より 639 万減り（91.0%）ましたがそれを上回る人件費等の支出を抑え、1136 万円の剰余を出しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
入居室数	29	28	29	28	27	27	28	26	27	28	26	28	331/360
入居者数	29	28	29	28	27	27	28	26	27	28	26	28	331/360
入居数		1					1		2	1		3	8
退居数	1		1	1			2			2	1	1	9
空室	1	2	1	2	3	3	2	4	3	2	4	2	29

【かわち野里ケアプランセンター】

報告者 大繁久子

《運営状況》前年度末で常勤換算 0.4 の非常勤職員が退職し、兼務の常勤換算 0.2 の支援体制で 1 年が経過しました。新規サービスにおいて在宅利用者に当法人デイサービスに紹介、体験を利用してもらいましたが利用につながらないことも多々あり、つながらなかった理由についてはそれぞれ事業所に報告していますが、改善をしたとの報告は受けていないのが残念です。

《経営状況》今年度の上半期は予算を若干上回ることができていましたが、下半期に入り入院および死亡の利用者様が集中し、その後入院から在宅復帰することなく契約終了となっています。毎月のように新規利用者様の実績はありますが、中止、終了もあり、なかなかプラン数が伸びませんでした。また、前年度指摘を受けた集中減算について、154 万円を 2 月より 7 月にかけて返還したため、大きな欠損（▲207 万）となりました。

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予
要支援1	2		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		107	108
要支援2	7	8	7	8	8	8	8	8	8	8	8	10	8	10	8	8	8	10	8	10	8	10	8	10		
要介護1	9		10		9		9		9		8		6		5		4		5		6		6		272	270
要介護2	15		16		16		14		15		16		15		16		17		15		15		16			
要介護3	7		7		8		8		7		7		7		7		7		7		7		7			
要介護4	3	12	3	12	3	12	3	12	4	12	4	12	4	14	4	14	5	14	4	14	4	14	4	14	168	156
要介護5	3		3		3		3		3		3		3		4		4		3		2		2			
プラン計	45	40	47	40	48	40	46	40	47	40	47	40	44	49	45	49	46	49	44	49	43	49	44	49	546	534
認定調査	2	4	1	4	6	6	3	5	3	5	4	6	6	10	1	7	5	8	3	5	4	4	5	5	43	69

【デイサービスセンターかわち野】

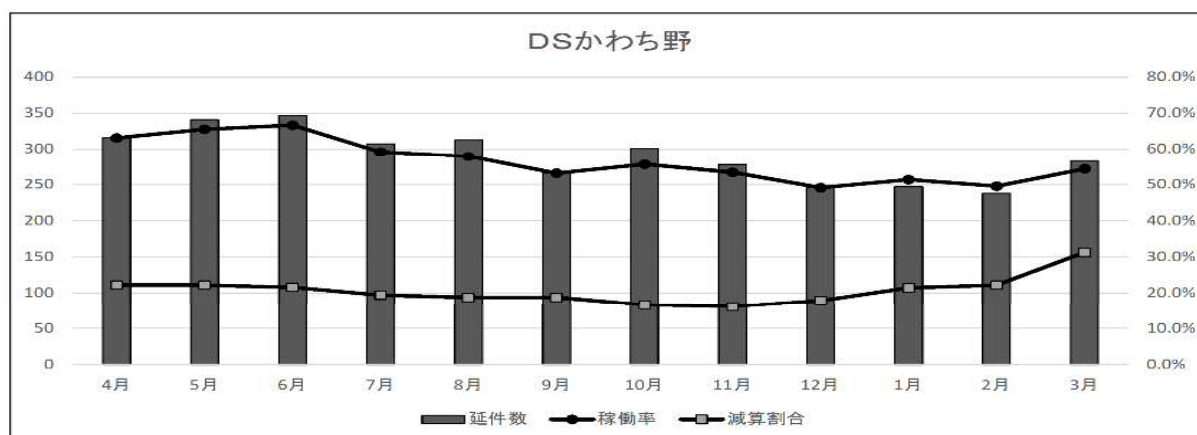
報告者 品川潤治

《運営状況》利用者様の体調不良や ADL の低下に伴う、入院・死亡が続き、終了者が、新規利用者を上回りました。新規利用者獲得ができなかった事で一日平均・稼働率が大きく低下。稼働率が 50%未満の日もありました。春から夏にかけて職員の退職が相次ぎ、紹介会社を通じて 2 名の職員を確保できましたが、職員不足を解消するには至らず、他部署からの支援を受けての運営でした。しかし、他部署からの支援を受ける事で情報の共有や職員間での連携や交流を図る事ができました。

《経営状況》月平均での利用者数 32 名（前年度 34 名）、延件数 290 件（前年 315 件）、一日平均 11.3 名（前年 12.2 名）、稼働率 56.6%（前年 61.2%）でした。前年度末から減少傾向で、第一四半期で若干の回復が見られましたが、その後は減少となり、前年を超過する月はなく、平均でも前年割れとなりました。営業訪問活動はできませんでした。

【DSかわち野】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	6
終了	0	0	0	1	4	0	0	1	0	1	0	3	10
	平均												
延件数	316	341	347	308	313	266	301	278	246	247	238	283	290
稼働率	63.2%	65.6%	66.7%	59.2%	58.0%	53.2%	55.7%	53.5%	49.2%	51.5%	49.6%	54.4%	56.6%
平均利用時間	7.04	7.02	7.03	7.05	7.07	7.01	7.18	7.17	7.17	7.16	7.14	7.14	7.10
減算割合	22.2%	22.2%	21.6%	19.4%	18.8%	18.8%	16.7%	16.1%	17.9%	21.4%	22.2%	31.3%	20.7%



【デイサービスセンターかんの】

報告者 品川潤治

《運営状況》利用者の約 9 割がサ高住入居者であり短時間で複数回の利用であることから、入院や退居に伴い利用者数が大幅に減少しました。予算から大きく乖離していたため下期に予算の下方修正を行いました。減少傾向は改善せず、2019 年に入ってから稼働率が 50%に到達せず危機的状況に陥っています。2019 年 2 月～3 月のサ高住の新規入居者で 2 名の方が利用開始となり、今後の入居予定者も利用予定はあり、増加傾向とはなっていますが、稼働率が 50%に戻る程度で外部利用者の獲得が進んでいません。

職員体制は看護師の「DS かわち野」への支援を行いました。また、男性常勤職員が退職した事でリフト車の運転が女性職員では対応が困難で、他部署からの支援を受け利用者様にご迷

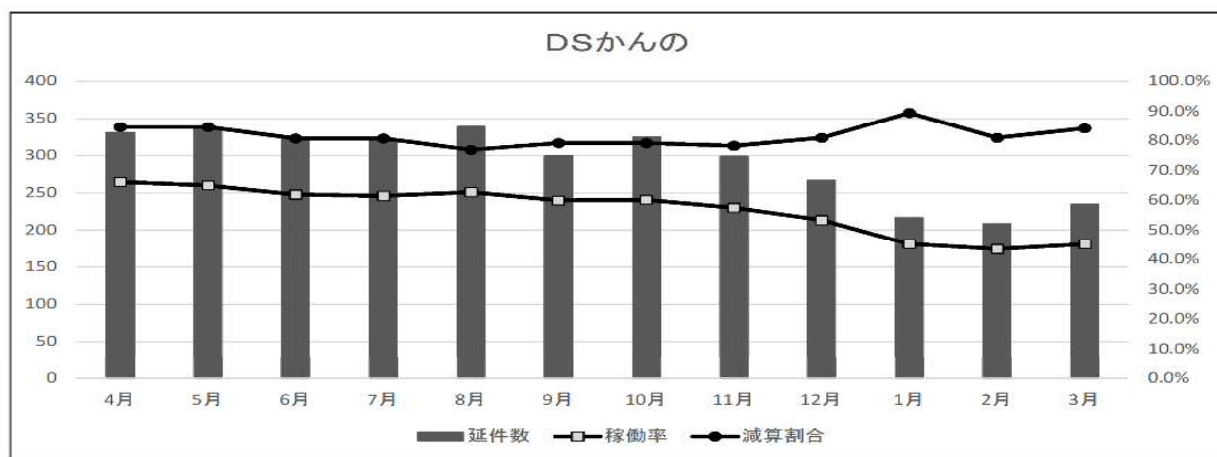
惑をお掛けしないように対応しました。

レクリエーションや壁紙・掲示物作成は職員も一緒に行い、デイの入口に掲示し、デイを利用しないサ高住入居者の皆様にも喜ばれています。

《経営状況》月平均での利用者数 23 名（前年度 34 名）、延件数 292 件（前年 326 件）、一日平均 11.4 名（前年 16.6 名）でした。前年平均稼働率 82.8%が、前年度末の稼働率が 73.1%で今年度に入っても減少が止まらず、2019 年に入り 50%を割り込み、予算・前年度を大きく下回る結果となってしまいました。収入が前年度比 71.3%に対し支出が 100.8%で、人件費が 55.8%から 78.6%でした。

【DSかんの】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	6
終了	0	2	2	1	0	0	0	0	1	1	3	0	10
	平均												
延件数	331	338	322	320	339	300	325	299	267	217	209	235	292
稼働率	66.2%	65.0%	61.9%	61.5%	62.8%	60.0%	60.2%	57.5%	53.4%	45.2%	43.5%	45.2%	56.9%
平均利用時間	6.16	6.23	6.3	6.21	6.17	6.2	6.18	6.19	6.21	6.26	6.18	6.22	6.21
減算割合	84.6%	84.6%	80.8%	80.8%	76.9%	79.2%	79.2%	78.3%	81.0%	89.5%	81.0%	84.2%	81.7%



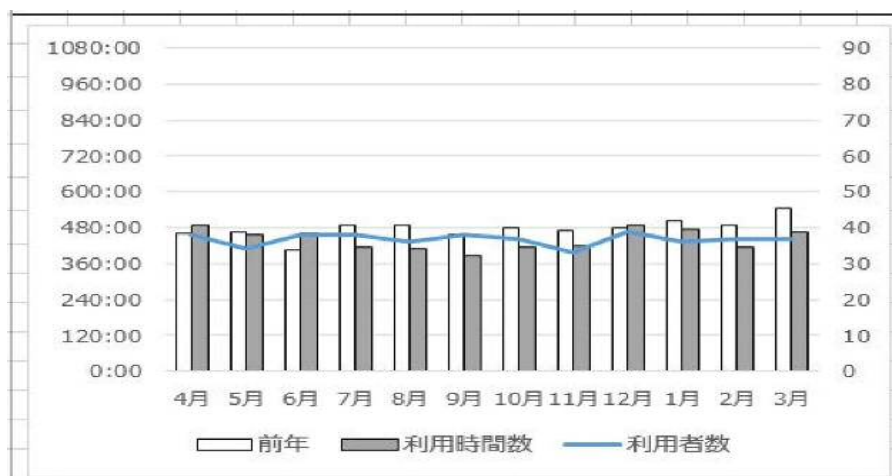
【ヘルパーステーションかわち野】

報告者 多田実保

《運営状況》有期職員の新規採用はできませしたが、各職員には働ける時間を有効に使ってもらえました。また、デイサービスへの応援を有期職員が中心になって行ないました。シフト連絡の行き違いなどもあり、調整方法などの課題が残りました。

サービスの利用時間数は徐々に増えていますが、予算にも前年度にも届きませんでした。

経営状況一収入は 2016 年度 2243 万、2017 年度 2057 万、2018 年度 1868 万と徐々に下がっている状態で、支出は 2016 年度 2356 万、2017 年度 2079 万、2018 年度 2226 万と抑えられておらず、▲377 万となりました。人件費は昨年度より 103 万円増の 109.2%でした。



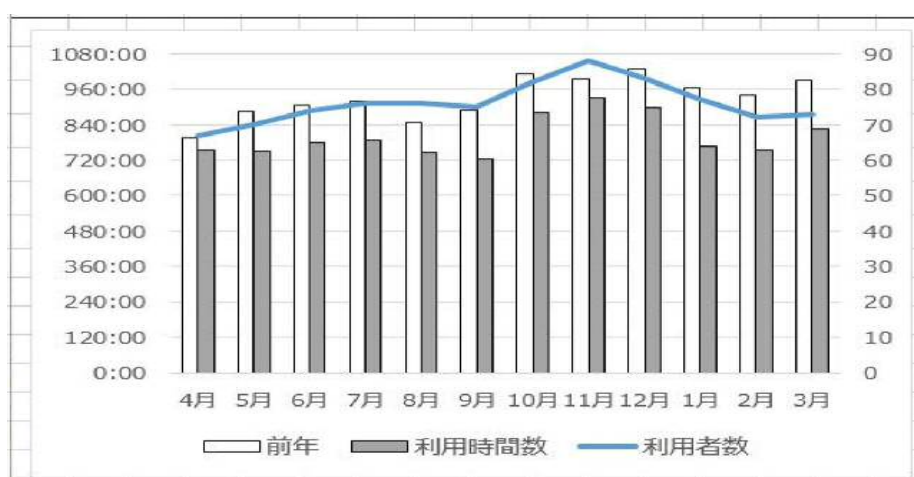
【ヘルパーステーションかわち野花園】

報告者 安永由美子

《運営状況》疾患を抱えている利用者様が多いため、入退院や入所による利用者の入れ替わりが多く、急激に利用者数が減少する月もありました。継続的に営業活動を行うことによって、利用者の確保ができました。利用時間も 1,000 時間に迫る月もでてきたことから、職員への負担が大きくなりましたが、みんなで協力し合い運営を続けています。

連携先以外のケアプランセンターからも依頼がくるようになり、困難な事例を受け持つこともあります。依頼内容をやり遂げることで、信頼を得ることができました。

《経営状況》新規依頼が急に増えたことにも対応できましたので、秋口に利用者数・利用時間が増えました。中止・終了者があったことで、利用時間が大幅に減った月もありましたが、「新規依頼は断らない。」ことで、利用時間を増やしています。収入は 3748 万で前年比 98.1%に対し、支出は 3174 万で前年比 99.8%でした。経常増減差額は 503 万（比 13.4%）の剰余を出すことができました。



【ヘルパーステーションかわち野加納】

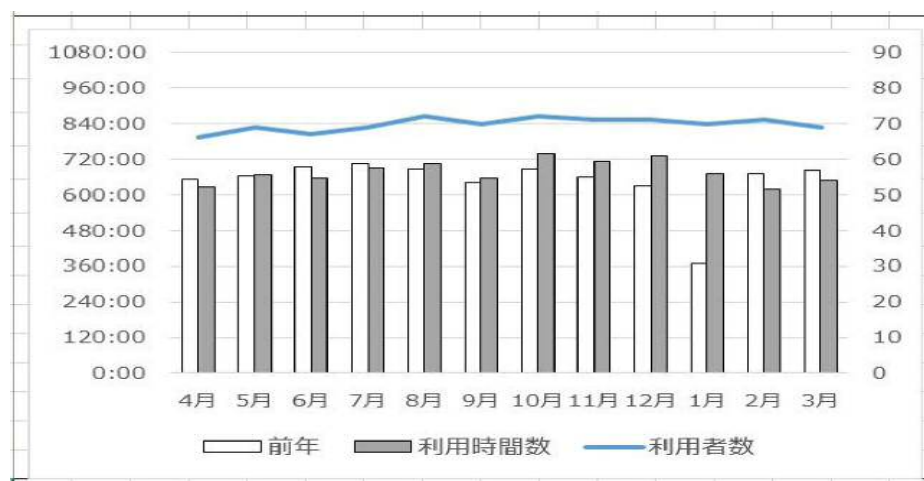
《運営状況》2019 年 1 月に入ってからサ高住入居者様の退去、入院に伴い時間数が減り 1.2.3 月は予算に届きませんでした。しかし、新規利用者は毎月 2～3 人程頂いていますので予算近

くの実績となっています。

有期職員からは仕事を入れてほしいといわれますが、居宅への訪問ではなくサ高住での仕事を希望するので難しい状況です。加納地区での居宅訪問のサービスが少ないので生協加納ケアプランセンターには紹介をお願いしています。楠根方面でのサービスは少しずつ増えていますが訪問できるヘルパーが少ないため、サ責がサービスに入る事となりサ責の稼働時間が増え続けています。

介護サービスに係るヘルパーの質の向上のためのヘルパー研修が必要と実感しています。

《経営状況》9月は入所と永眠の利用者の影響により、時間数が減少しました。また、2月は入院と入所の利用者が6名あったことで利用時間が減少しましたが、計画時間数に到達することができました。前年の実績時間数も上回っています。収入は前年度比97.1%ですが予算を達成し、440万（比16.3%）の剰余を出しました。



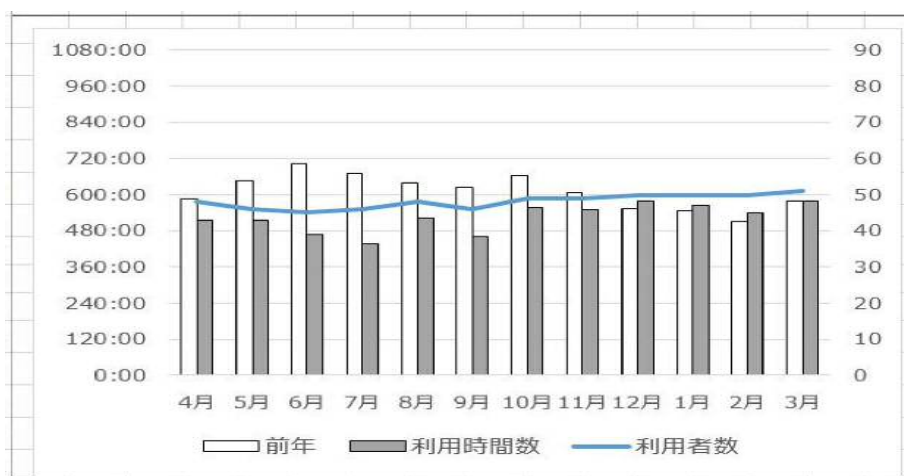
【ヘルパーステーションかわち野八尾】

報告者 阪下瑛子

《運営状況》—ヘルパー不足です。現利用者の利用時間が増えてきており新規利用者を確保することができていません。複数のケアプランセンターから新規の依頼もありますが、断らざるを得ない状況です。また、収入制限のあるヘルパーがほとんどのため、サ責が介助量の大きい(身体介護)利用者にサービス提供を行なっています。従って、事務所が無人になってしまっていることが多くなってきています。

売上を伸ばすために、援助内容の見直しと改善を行い、できるだけ身体介助を付けていただけるようにケアマネージャーにも実績を作り報告を行っています。

《経営状況》計画時間の予算比は65%～84%の到達度でしたが、前年比は72%～106%と上回る月がありました。7月・9月の利用時間が少ないのは、保険外サービスを多く利用している方が、ショートステイを利用されていたためです。10月以降、管理者交代など体制が不安定になりましたが、利用時間を増やすことができました。前年は227万の赤字を出しましたが、今年度は89万の赤字に抑え137万円の改善が見られました。



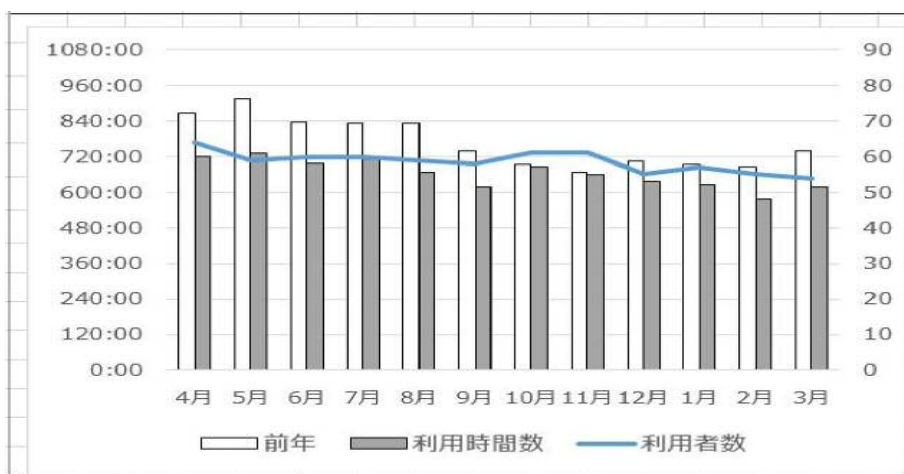
【ヘルパーステーションかわち野大東】

《運営状況》前年度の大幅な利用者減から、少しずつ利用者確保していきましたが、伸び悩みました。9月より連携先のケアプランセンターが再開となり、利用者も月1名程度で増やしていましたが、12月に協立診療所の認知症デイが閉鎖する為、11月末で入所される利用者が複数名あり、時間数減になってしまいました。

毎月決まった自費利用があり、スケジュールに取り組むことができるようになり、安定した収入になっています。他事業所の急な自費利用の依頼も対応することで、新規依頼をもらう事が出来ました。援助内容を見直すことで、時間数を増やすことが出来たところもありました。実務者研修修了のサービス提供責任者が、介護福祉士試験に合格しました。

《経営状況》新規利用者数よりも、入院・入所者数など休止が上回り、利用時間が減少する結果になってしまいました。収入は2689万で予算の84.3%であり、前年度の83.7%521万収入減になりました。経常増減差額は▲214万（▲8.1%）でした。

他事業部への営業を続けていますが、利用者確保は数名でした。12月から入院者が多く、新規あっても時間数減になりました。さらに新総合事業の利用者の依頼が1名しかなく、新規が難しい状態になっていました。



【配食サービス長瀬センター】

報告者 藤岡雪

《運営状況》制度利用廃止に伴い利用中止が相次ぎましたが、継続していただいている利用者様やケアマネ様のお声から必要とされている事も実感できる為、更なる新規獲得の営業活動に工夫するようにしています。

昨年から取り組んでいるシフト制による役割分担が明確になったこともあり、状況に応じて常に会議での話し合い、時間のロスをなくし全体で効率よく要員配分出来つつあります。又、環境改善面でも衛生面・無駄のない仕入れ等、職員がお互いの声掛けにより良い点、悪い点を常に声掛けることが出来、個の意識から全体へと意識の変化を感じています。

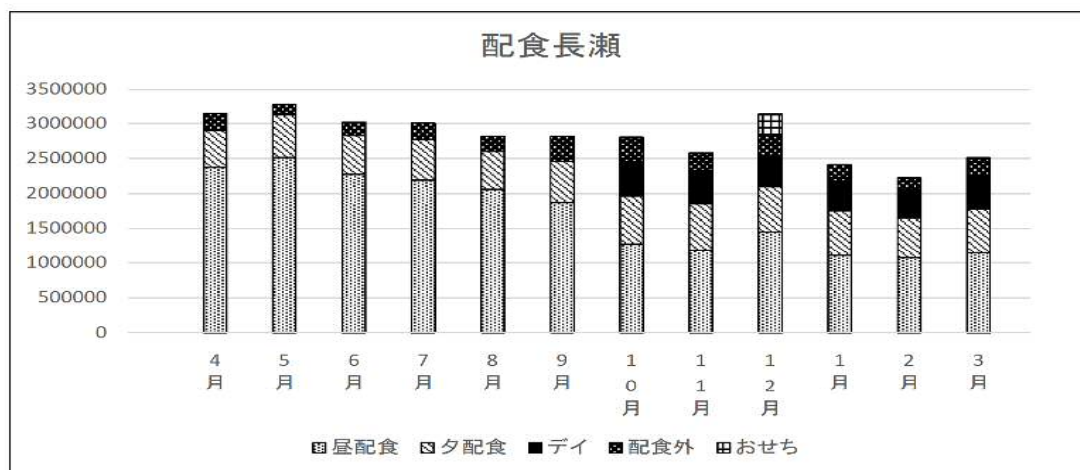
職場内での紛失物が度々あった為、持ち出し書類の禁止と検品等を配送業者とチェックするようにしたり、献立や盛付の工夫や味の安定を図る為、厨房で複数人が味見をし提供する形に変更したりと業務改善を進めています。

《経営状況》9月末で市の食の自立支援制度廃止により10月1日より経営状況が厳しくなることを想定し、エリアの拡大や登録者数拡大のため、地域包括支援センター等への営業活動を進めていきました。医療生協かわち野の病院圏のデイケア、デイサービスでの昼食を配食長瀬で担当させていただくことができ大きく欠損を出すことを食い止めることができました。

長年、焦げ付いていた未収金51件、828,820円をすべて追跡し、回収できた額649,258円、回収不能となった19件179,562円を理事会の承認を得て欠損処理といたしました。

昨年度経常増減差額▲664万だったところを、今年度、下半期を委託はずれましたが▲443万に抑えることができました。

収益	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
営業日数	25	27	26	26	26	25	27	26	25	24	24	26	307
昼食数	2888	3052	2806	2667	2517	2339	2041	1895	1803	1778	1727	1835	27348
夕食数	934	1075	976	1034	967	1038	1124	741	1061	1057	948	1043	11998
デイ食数							973	936	905	804	813	920	5351
配食外数	513	411	474	487	477	513	658	441	464	365	334	287	5424
おせち数									78				78
食数計	4335	4538	4256	4188	3961	3890	4796	4013	4311	4004	3822	4085	50199

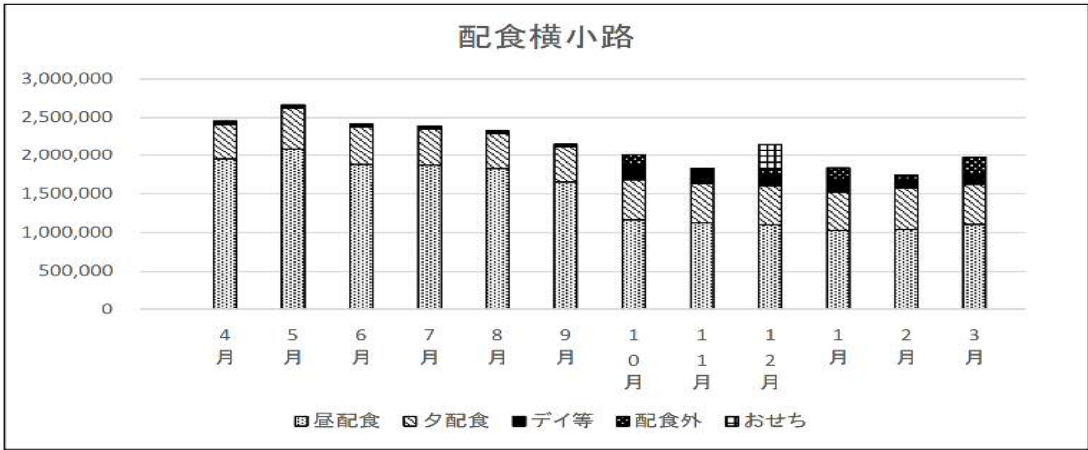


【配食サービス横小路センター】

《運営状況》 昨年の10月から補助金がなくなってから昼食は一日平均69食前後（平均25食減）を行き来しています。登録者も4割減しました。夕食は緩やかに増えています。そして半年がたとうとしていますが大きな変化と成果をあげられていません。これから職員も手薄になってしまいますが、食数が減っているのので既存の職員で乗り切りたいと思います。体制を見直し、業務改善を進めていきます。

《経営状況》 9月末で市の食の自立支援制度廃止により10月1日より新料金体制に変更になりました。検討を重ねる中、今までと同じできるだけ国産の食材にこだわること、見守り声掛けの生活サポートは福祉の観点から継続することを確認し、料金設定をしました。チラシを作成し、けんこう（広報誌）への掲載して頂き、登録者確保を急ぎたいところですが、人的体制により営業活動に出られていません。医療生協かわち野の花園園での介護サービスの昼食を受注もらえないかお願いしているところです。

収益	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
営業日数	25	27	26	26	26	25	27	26	25	24	24	26	307
昼食数	2324	2479	2261	2228	2182	2011	1865	1808	1722	1654	1666	1776	23976
夕食数	897	1016	960	932	889	884	833	811	799	782	854	823	10480
デイ等数	95	86	89	83	70	67	384	359	3289	339	338	364	5563
配食外数							240	50	75	186	45	204	800
おせち数									75				75
食数計	3316	3581	3310	3243	3141	2962	3322	3028	5885	2961	2903	3167	40819



【配食サービス加納センター】

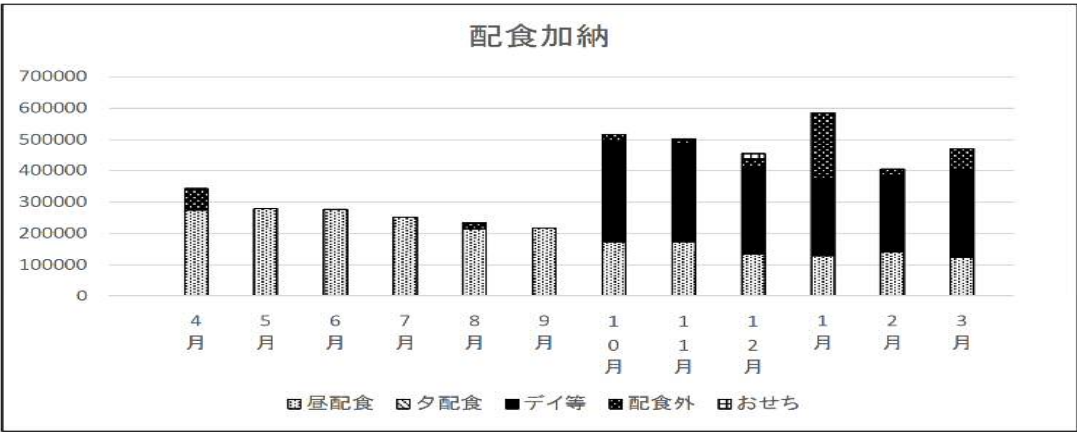
報告者 大塚篤司

《運営状況》 昨年10月より市の委託事業ではなくなり、委託としては横小路センターの地域の一部を担っていましたが、「配食サービス加納センター」としてより独立しました。サ高住内の厨房で入居者さん、デイかんのの昼食に加えて配食サービス事業となります。

《経営状況》 開設当初よりほとんど食数は横ばいでしたが、委託事業がなくなり減少傾向です。

また慢性的な人員不足も続いており何とかスタッフの協力も得てやりくりして回している現状が続いています。サ高住との按分で、水光熱費等の経費や人件費、家賃等が明確となり、重い負担となっています。医療生協かわち野の認知症デイの昼食は対応させていただいてますが、デイケアについても受注いただけないかアプローチしていきたいと思っています。

収益	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
営業日数	25	27	26	26	26	25	27	26	25	24	24	26	307
昼食数	319	325	322	289	248	260	279	282	219	208	227	215	3193
夕件数													0
デイ等							281	584	491	451	444	520	2771
配食外	85				25		30	2	28	261	34	88	553
おせち									7				7
食数計	404	325	322	289	273	260	590	868	745	920	705	823	6524



【サ高住かわち野里加納】報告者 竹ノ内美幸

《運営状況》2018年度は新規入居者 20 名、退居者 10 名の予算でした。実際には新規入居者は 23 名でほぼ見込み通りでしたが、退居者が 21 名で倍数となり、純増は 2 名に留まりました。そのため、満室を達成する事ができませんでした。新規入居者は元気な方が多く、介護の必要なく長期入居が見込める方ですが、反面、介護サービスにつなぐ事ができませんでした。長期で入居されている方の ADL が徐々に低下しており、個別サービスの利用率は高まっています。特に配下膳サービスは約半数が利用されています。

今年度も生協加納診療所と連携を行い、1 名の方の看取りを行いました。また毎日の健康チェックを行う事で状態の変化に早期に気付く事ができ、対応できました。

職員体制として日中は充足していますが、朝食・夕食時に不足している状況です。

平成 30 年 10 月から施設長交代となりましたが、満足に引き継ぎが行えず、職員だけではなく入居者様を不安にさせてしまう状況があり改善が急がれます。

《経営状況》前年度は入居者数 11 名、退居者数 21 名でしたので、今年度は入居者数（23 名）を大きく伸ばす事ができました。Web を活用しての入居者募集の効果がありましたが、前年度・今年度ともに退居者数が想定より多く、入居者数が 70 名を超える事ができず、空室を埋

める事ができませんでした。退居の内訳は入院・死亡が 8 名、介護施設入所が 7 名、サ高住での看取り・死亡確認 3 名、その他が 3 名でした。

昨年度▲ 2 2 9 6 万、今年度▲ 2 9 2 5 万と累積赤字を大幅に伸ばしています。大きな要因として土地、建物の賃借料が大きいことはもとより、人件費が 3 0 0 万増、個別サービスの料金設定の見直しや、サービスの利用方法（介護サービスを限度額まで使わず、個別サービスで対応していること）など検討課題になっています。特養やケアハウスの第 1 種社会福祉事業とは違い、補助金等はないため利用者の負担が大きいと、十分な検討と論議が必要になっています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居室数	65	64	65	66	65	64	67	67	65	62	63	66	
入居者数	68	67	68	68	67	66	68	68	67	64	65	67	
入居者数	2	1	1	3	1	0	4	0	2	0	3	6	23
退居者数	2	0	4	2	1	1	0	3	3	2	3	0	21
空室	10	11	10	9	10	11	8	8	10	13	12	9	

【介護員養成研修】

報告者 小林美香

《運営状況》初任者研修（旧 ヘルパー 2 級）を 2019 年 1 月 19 日から 4 月 27 日までの年度 1 回の開催となりました。毎週土曜日の計 15 回で、おおむね朝の 9 時 30 分より夕方の 16 時 45 分、講師は前回 2 回目（2018 年 2 月）より、人権啓発の外部講師以外は福祉会の職員で講義を賄っています。介護職の概要や人権。障害について、医療との連携、認知症についての座学のみから、移動、入浴、食事、排泄などのケアの基本を実践交えて学んでいただき、最後には振り返り、修了試験、資格証の発行を行いました。

《経営状況》年 2 回開催予定していましたが、現場の欠員状況から講師の確保が難しく延期していました。しかし、欠員状況は改善されず、開講することで新入職員の確保をすすめようと開催することにしました。広報はいつもと同じように行いましたが、親の介護などで知識を持ちたい、転職希望など 13 名（前回、2017 年 2 月開催時 6 名）が受講者が確保できました。うち奨学金制度の利用者は 5 名（38%）の確保となりました。

受講料 68000 円 × 13 人分 = 884000 円

費用としては、広報活動に 12 万 講師料は外部講師分のみであり、座学の期間に通信教育（ニッソーネット）12 万、教材テキスト代などがあります。

以上